

## 近況報告 代表デブラ・ラッセル

前号のWASLI会報の発行以後、WASLIの理事会と地域代表は精力的に業務を行ってきた。今号の会報に見られるよう世界の各地で素晴らしい取り組みが行われている。

2014年の出来事として、3月にサウジアラビアを訪問して手話通訳者への4日間の講座を開催し、協会のろう者の役員たちとの会合で歓待を受けた。講座への招待、またろう者と通訳者が出会うこのような素晴らしい機会への支援に対して、ハンド・アルショワイエ氏と [プリンス・サーモン障害研究センター](#)に、感謝するものである。

登録手話通訳者協会本部（RID）を訪問した。その日の午後、示唆に富む談話ができシエン・フェルドマン氏と有能な職員に感謝している。素晴らしい出来事として初めてRIDの業績を知った。

4月にはドバイでの会議に招待されアラブ6か国の通訳者たちに対して通訳者の倫理に関するワークショップを開催した。サウジアラビアの友人と再会し、また、新たな出会いがあったのは喜びである。

通訳者の養成や現在の協力関係を向上させる方法を知りたいという要望があることは明らかである。

WFD理事のジョー・マレー博士は会議での基調講演者で、私たちは一緒にろうあ協会と会話し通訳問題について話した。

5月 ロシアろう協会（VOG）には[第2回「ろう者の言語権」に関する国際会議](#)に招待されその場で発表ができ感謝している。

ロシア・コーカサス・中央アジア地域代表のイゴール・ボンダレンコ氏もまた会議に出席した。私の発表はろう者の人権を支える協力者としての通訳者に関してで、イゴールは地域でのWASLIの活動について話した。ロシア手話通訳者協会が将来WASLIの会員となることを願っている。

7月 メキシコシティでの[北アメリカ手話通訳者会議](#)のあとカナダの通訳者協会（AVLIC）の会議に出かけた。



## 目次:

- 近況報告 1
- アジア地域報告 2
- フィジーの今後に期待 3
- パキスタン手話通訳事情 4, 5
- 自転車でWASLI支援 6, 7
- ろう者の言語権国際会議 8



最新情報はこちらから

[Facebook](#), [Twitter](#)

または WASLI の HP へ:

[www.wasli.org](http://www.wasli.org)

8月 理事の何人かがWFDアジア会議の一環としてマカオで対面協議。

[2015年 WASLI 会議](#)のサイトをアップ。会議の内容の概要を載せ、早期登録はすでに可能である。ボランティアと会議を主導してきたミシェル・アシュレイ氏のおかげで、こんなに多くの献身的な人たちが会議の計画を立てるのに時間と能力を発揮してくれている。

世界の手話通訳者の職業としての向上のためのたゆまぬ努力をしてもらっている理事の一人ひとりと地域代表の皆さん、また、リス・スコット・ギブソン氏やゼイン・ヒーマ氏のような生涯にわたる代表として通訳者のもとに行き通訳技術を教授していらっしゃる方に感謝する。

WASLIは皆さん一人ひとりの努力により組織規模を拡大している。フェイスブックやツイッターをチェックしていないならお気に入りに加えてほしい。ウェブサイトには英語と国際手話で、財務から組織作りに関して、また、最新の会議の内容がアップされている。

質問があれば連絡を。



## 地域報告—アジア～第6回アジア手話通訳者会議開催

8月25日から27日の3日間、第26回WFD（世界ろう連盟）アジア代表者会議と、それに並行して第6回アジア手話通訳者会議がマカオで開催されました。マカオろうあ協会の設立20周年記念行事に合わせて、開催地が決定されたのです。また、アジア手話通訳者会議に先立って、WASLI（世界手話通訳者協会）理事会も開催されました。会議の様子を報告します。

WASLIは2005年に設立し、全通研は立ち上げ準備からかかわっています。設立当初からずっとアジア地域理事を担当し、アジア手話通訳者会議を主催しています。今年は、そのWASLI理事会をマカオ会議と合わせて開くことになり、国際部は準備に大わらわでした。

WASLI 理事との懇談会（8月25日14:00～17:00）

WASLIの理事たちがアジア手話通訳者会議に参加するのは初めてです。そこで、理事たちとアジアの手話通訳者との懇談会を企画しました。WASLIの5人の理事とアジア各国から通訳者とうろう者が、合わせて12カ国40人も集まりました。

ここでもやっぱり壁はコミュニケーションです。参加のろう者は国際手話通訳が必要。健聴者で英語がわからない人は、自国の仲間が音声通訳をします。とにかく誰一人、置いてけぼりにならないよう、みんなで協力しようと呼びかけました。デブ、スーザンとナイジェルが国際手話通訳を申し出てくれました。でも、デブはみんなの質問に答えなければなりません。そして、ナイジェルはろう者なので、発言者の英語の手話通訳を介して、それを見て国際手話にするという、リレー通訳です。そんなこんなで交代要員はなし。20分交代なんて、とてもできませんでした。その代りみんなでストレッチをしました。





参加者からは、WASLIの会員資格について、通訳者組織は独立したほうがいいのか、ろう協内部に作ったほうがいいのか、養成や認定をどうしているか、WASLI理事が研修に来てくれるのかといった質問がありました。韓国からは、船の転覆事故の時テレビに通訳がつかず、ろう者は情報が得られなかった。他の国では緊急時と災害時のテレビ通訳がどうなっているのかという発言があり、各国の状況を聞きました。ほとんどの国は緊急時の情報保障はありません。共通の課題ということを確認し、WFDとWASLIの合意文書が交渉の助けになるという話になりました。

#### ワークショップ（8月26日11:00~12:30）

第4回会議のときから、情報交換だけでなく一緒に学べるワークショップをしています。今回はWASLI北米理事のナイジェルにお願いしました。昨日の懇談会は国際手話⇄音声英語の通訳がありましたが、連日の通訳は大変です。そこで、ワークショップは英語のパワポとナイジェルのわかりやすい国際手話で進めることにしました。テーマは「Deaf World, Hearing World, Interpreter, Diversity（ろう世界、健聴世界、通訳者、多様性）」で、ろう世界と健聴世界の歴史や文化の違い、通訳者は表面に現れる「ことば」だけを通訳するのではなく、意味を伝えなければならないこと、「ろう」という定義にはそれぞれの国のイデオロギーが影響していること、ろう者のアイデンティティはどこから生まれるのかなど、多岐にわたって話をしてくれました。みんな、真剣に「見て」いました。

#### アジアへの支援

日本の通訳者組織である全通研（NRASLI）と土協会（JASLI）は、会議参加国に対して、自国のろう団体とともに活動し推薦状を事前に提出することを条件に、財政支援をしています。今年は5カ国に対して支援しました。「日本の会員のみなさんに感謝します！」「日本からの支援があるから、参加できました」という声をいただきました。

参加はオブザーバーを含めて、11カ国36人。各国の代表者がメインテーブルに座ります。これまでで最高の参加数で、とてもうれしいです！！

今回の議題は①各国の現状報告と情報交換、②アジア地域でのネットワーク作り、③次期アジア地域理事選出についてです。まず、議長にインドのブンジャビ氏とフィリピンのナティさんを、記録者にインドネシアのピンキーさんを選出しました。

事前に集約している「手話通訳に関するアンケート」を基に、現状を追加・修正してもらいました。これでアジアの国々の状況がわかります。ほんとうは、報告に対して意見交換をする予定だったのですが、時間がなくて報告だけで終わりました。今後の課題です。

この報告の全文は[こちら\(英文\)](#)



## フィジーの今後に期待



オーストラリア手話通訳者協会 (ASLIA) には2つの機能を果たす機会創生基金(COF)がある。オーストラレーシアとオセアニアの新興国の通訳者のサポートとそのための資金調達である。今年4月と5月にCOF はニュージーランド手話通訳者協会(SLIANZ)と共同で6日間の通訳者集中講座をフィジーの首都スバで開催した。ゼイン・ヒーマ氏が講師として選ばれフィジーのクローデット・ウィルソン氏が助手として採用された。

SLIANZ のアンジェラ・マレイ氏の調整により、キリスト教団体や新興国の機関からの財政支援でソロモン諸島から2人の通訳者が参加できた。また、ツバルからも1人が参加し、これがオーストラレーシアとオセアニア地域の国際的な通訳者の講座となった。

この講座は太平洋内で唯一活動を行っているフィジーろう協会に大変な支援を受けた。

フィジー手話通訳者委員会(FJSL)は、職業としての手話通訳者養成につながる上級コース講座を準備した。

フィジーには大きな通訳者集団があるため、講座は2つに分けられた。初めの4日間は通訳と言語に関しての一般論とした内容で、ゼインは手話が視覚的また空間的な言語であることを詳細に解説した。30人の参加者にとって氏の分析は示唆に富むものとなった。残りの2日間はフィジーの経験豊かな17人の通訳者のために理論的な枠組みの中での探究となった。

COF の講座の反響は大変好意的で、多くの参加者は太平洋地域でのさらなる講座を望んでいる。通訳者への講座の不足は太平洋地域では課題である。資格証明・免許のないため通訳者がプロとして認められることが困難だと考える通訳者にとっては深刻な問題となっている。WASLI Australasia/Oceania の会員は、どこでも養成講座に参加できるよう協力するつもりである。

「通訳者養成のプログラムは絶好の機会に開催された。職業としての通訳を考える待望の機会となった。フィジーの通訳者たちが一堂に会してこれほどうまくやるのを見たことはない。講座は、私たちのほとんどにとって目を見張る経験であっただけでなく、通訳という職業内での一体感、まとまりをもたらしたのだ。より大きな、より良い、より明るい将来を期待している。」セレシガ・ドローナ(通訳者 講座参加者)







### パキスタンの手話通訳事情

アキール・ウル・レーマン・ハミード アモス・イブン・イブラヒム

手話通訳者は、従来の考えとは異なり、2つの文化—ろう文化と聴こえる人の文化—の架け橋であり、ろう者に対してのみの通訳者というわけではない。高い技能を持つ通訳者は2つ以上の言語間の通訳に精通しているものである。手話言語と音声言語間の通訳、あるいは、ある手話言語から他の手話言語という風に（例えばパキスタン手話をアメリカ手話に）。高い技術を持っていると認められるには2つの言語に熟達しているという以上のことが求められる。2つの言語間を滞りなく通訳できる力と研修機会を持つことが必要である。そのため、言語学と文化に対しての深い理解が欠かせない。

パキスタンにはパキスタン手話の通訳者が不足しているが、主たる原因は以下である。

- 1 司法、医療、教育の場に通訳者を配置する法制化がされていないこと
- 2 新規の通訳者のための養成プログラムが大学にも職業訓練機関にもないこと

法廷や病院また教育機関に通訳者を置く場合に通訳の資格を要求されなかったり政府の関与がなかったりする。その結果、職業としての手話通訳者を目指す聴者が意欲を持っていない。

アメリカや他の多くの国では手話通訳者は行政が設置している。ところが、パキスタンでは、ろう者は自身自身で通訳者を探さなくてはならない。多くのろう者は通訳を依頼する金銭的な余裕がないので、家族（たいていの場合はもっとも基礎的な手話の学習もしていない）に頼むことになる。それで、パキスタンのろう者はほとんどが通訳者を頼む経験がないことになる。多くの人たちは手話が使えない聴者は通訳もできる、という誤った考えを持ち、そんな「手話を使えない人」を当てにするのだ。あてにしてはならないのにあてにしなければならないのだから事態は複雑になり悲惨な結果をもたらすことになる。法に関わる場面で似非の通訳者に頼っているパキスタンのろう者は、投獄あるいはそれよりも悪い事態に置かれるだろう。例えば、病院では聴者であれば治療を受けるのに、医師が伝えようとするのがわからないという理由から治療を受けないことがある。同様のことは聴こえる弁護士、警官、裁判官とでも起こることである。上記が最悪の事態を想定したものであるにしても、有能な手話通訳者がいないためにろう者が直面する教育的な不平等を解決する糸口にはならない。講義をきちんと通訳してくれる通訳者がいなくてどのようにしてろう者が大学に行けるのだろうか。

残念なことに、パキスタンにはある程度の手話通訳技術を学べる機関はない。短期間の概要コースを持つ私立の学校はあっても、ここでは理論的で実践的な通訳者養成は行われず、現場で実際に技術を応用する訓練は不十分である。上のように通訳ができることと2つの言葉を知っていることは全く別のことである。パキスタンでは多くのろう者は双方の言語の基礎的な知識さえない無資格の通訳者に頼っている状況である。結果、ろう者はパキスタン社会では軽く扱われて他人の慈善にたよる集団となる。他の国のろう者の集団は人に頼らず教育を受けた社会的制約のない集団であるのに。

パキスタンのろう者と関係者は乗り越えることができない疑問は解けないままである。「パキスタンの聴者とろう者にとって有用な十分な手話通訳サービスをすべての関係者に保障するには、この状況を変えるために何がなされるべきか」

## 自転車で WASLI 支援

ジャック・カロン

私は自転車で長距離走をしたいとずっと思っていた。フランスをと思っていたが、タイを走行することになった。バンコクからプーケットまで8日間で850kmを走った。短い日で67km(初日)、一番長い日では146kmを走った。

ずいぶん以前にニュージーランドの南島のピクトンからダニーデンまで約700kmを数日間一人で途中友人の家に泊まりながら自転車で走ったこともあった。そのときはカバンを二つ持ち比較的新しい10段変速の自転車に乗った。ほとんど人気のない道を走った。

今回は全く違っていた。しっかりしたグループでちゃんとしたロードバイクに乗った。リーダーがいて、荷物を運んでくれて水やエネルギー飲料、果物や色々な食べ物を供給してくれるバンも同行した。毎日昼食は小さなタイ食レストラン（あたりまえ！）で摂り、夜はたいてい四つ星のホテルに泊まった。

タイの3月は一年で2番目に暑い時期で日中は34℃になる。湿気もあるので、44℃くらいに感じる。そのときは知らなかったのだが、そんな気温は熱けいれんや熱疲労を起こす原因になるらしい。ずっと走っていると熱射病になる危険もあるので、十分な注意が必要だ。

私たちの安全を見守ってくれ、水分やエネルギーの補給を定期的に行ってくれたサポートスタッフに敬意を表さなければならない。驚くことに、私たちは一日中走って、大量の水分を消費したが、休憩や昼食の時にトイレに行く必要はなかった。水分は全部汗で流れてしまっていた。

これが私の自転車旅行であり、私の夢だった。私はこの旅行記を共有して、トルコのイスタンブールで開催されるWASLI2015に途上国の手話通訳者が参加できるようにWASLIの支援基金のために寄付を募ることにした。メールかWASLIのFacebookを通じて多くの方が寄付を寄せてくださるとありがたい。US800ドルが集まったと信じているがさらに多くの寄付が必要なので、[こちらまで\(英文\)](#)

私たちが走った道は大部分が幹線道路から離れていたが、自転車での走行に適した道は交通量の多い道路でもほとんど快適であった。

私たちはバンコクの西、タイランド湾の端にあるソルトフラットを過ぎ、釣り船が夜間停泊する港のある多くの川を渡り、壮観な人気のないビーチを眺め、リゾート地になるにはどれくらいかかるのだろうかと思いをめぐらせた。ホアヒンでは、宮殿に住む王の警備にあたるタイ海軍の船が沖に4隻見えた。

いくつもの小さな村を過ぎたり、さびれた道を走ったり、また時にはプーケットまでの幹線を走りもした。2つの大きな丘は大変だった。対して急なわけではなかったがペダルを漕ぐ脚は遅くなり、汗が流れ落ちた。だが、下り坂は気持ちよかった。





クラ地峡で川の向こうに見えるミャンマーの景色は単純にジャングルのものであったが、カオラック近くの係留してある釣り船や共同墓地、石碑などは2004年12月26日のインド洋津波を思い出させた。

旅が進むにつれて、暑さに気を奪われ、脚や背中、尻、手の痛みを感じるようになってきた。けれどもそんな思いも今では消えてしまい、夢を持ち、それを実行し、目標を成し遂げたという満足感に満たされている。

この旅行記の詳細は[こちら](#)



### ろう者の言語権 モスクワ

5月20日～22日、ロシアの、モスクワ市で「第2回国際科学実践会議『ろう者の言語権』」が開催された。この会議は世界ろう連盟の支援を受けて、全ロシアろう者協会（VOG）が主催したものである。本会議の目的は、一般市民と行政に対してロシアのろう者の人権問題の啓発であった。手話が認識され公的な分野で利用されるように注目を集めることができた。会議のもう一つの目的は、職業手話通訳者の労働条件の向上であった。

WASLI 代表として会長のデブラ・ラッセル氏、ロシア・コーカサス・中央アジア地域代表のイゴール・ボンダレンコ氏が出席した。会議には世界15カ国以上から350人以上の参加者があり、60人の発表者による64本の発表があった。

会議期間中モスクワでは地元の手話通訳者の状況や課題などをよく知ることができた。その上、ロシア通訳者協会の素晴らしい業績や今後の計画についても知ることができた。間もなく WASLI の会員になることを期待している。



## WASLI 2015



## 大会についての最新情報

WASLI2015大会の実行委員会は現在2015年7月開催の大会の準備中である。以下詳細を少し：

- ・早期登録は2014年11月30日まで。支払いが済んで登録完了である。
- ・プレ大会の発表者が決定した。大会日程は[ウェブサイト](#)から。
- ・主要な発表者は2014年12月決定し発表する。

7月お会いできることを楽しみにしています

## 重要事項

この会報の記事内容がすべて世界手話通訳者協会の考えを表わしているとは限りません。WASLI会報は、編者が WASLI 理事及び外部からの寄稿者と共に作成しています。WASLI は情報内容の信頼性を保つよう努めています。会報に掲載されているすべての情報を編集する権限は WASLI にあります。掲載内容の正確性や個人意見に関しては、WASLI は一切責任を負いません。出典を明確にしていれば、掲載内容の転載も認めます。WASLI の公式写真の使用許可申請及びメールアドレスの変更申請は secretary@wasli.org まで。

## WASLI 理事会

役員:デブ・ラッセル (会長);ホセ・ルイス・プリエバ・パディラ (副会長);アウォイ・パトリック・マイケル (事務局);スーザン・エマーソン (会計)  
 地域代表: シーナ・ウォルターズ、アンナ・ポスト (南洋州・オセアニア); ティム・タイナット (アフリカ); モニカ・プンジャビ、梅本悦子 (アジア); セルマン・ホティ (バルカン); ホセ・エドニルソン Jr. (ラテンアメリカ); ナイジェル・ハワード (北アメリカ); イゴール・ボンダレンコ (ロシア・コーカサス・中央アジア); (ヨーロッパ) 調整中

## WASLI ボランティア

WASLI 会員管理: ロニ・レポーレ  
 WASLI 翻訳コーディネーター: ジョルディ・フェツリ(他ボランティア)  
 会報編集: アンジェラ・マレイ  
 編集助手: パトリック・ガラツ

会報校正: アウォイ・パトリック・マイケル(ナイジェリア)、サラ・ロームズ(アメリカ)